

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

村の道なら、すれ違いざまに肩が触れたとして、「あ、ごめん」と顔見知り同士が軽く会釈をすればすむ。それがネットでは、事故になったりする。相手のバックグラウンドを知らないまま始まる言葉の応酬。そもそも前提としている常識が違えば、互いに「なんて非常識な！」ということになる。イメージとしては、違うルールで高速①道路を走っているようなもの。さらに SNS の場合、事故で燃えている車があるという情報が広がると、消火活動よりも、何故か油を注ぎに来る人が群がるという傾向がある。いわゆる炎上という現象だ。

便利で、やっかいな時代を、私たちは生きている。顔の見える関係が広がった先に、さらに顔の见えない関係が追加された。「顔」といえば、思いつくエピソードがある。電車の中で「面と向かって電話した」と聞こえてきたのだ。X その時の驚きを拙著『言葉の虫めがね』に綴っているので、抜粋してみよう。1999 年出版のエッセイ集なので、今から四半世紀前の言葉の観察記録である。

あるとき電車に乗っていたら、若い男の子が「オレ、そんなときはばかりは腹立って、面と向かって電話しちゃったよ」と言っていた。「ん？」と思って耳をダンボにする私。面と向かえないから、電話をするのではないか？ この子は「面と向かう」を間違って使っているのだろうか……。が、よくよく聞いてみると（失礼！）そうではなかった。話は、こうである。

その男の子は、日常的にパソコン通信をしているようで、近ごろ通信相手とかなりひどいトラブルがあった。ちよつとしたことなら、電子メールで抗議するぐらいですませるのだが、あまりに頭にきたので、そのときはかりは電話をかけて文句を言った——と。A、電話をかけて肉声で直接話すというのは、彼にとつては立派な「面と向かう」行為なのである。

私たちの日常において、電話というのはかなり「濃い」コミュニケーションの部類になってきているようだ。かつて電話が②登場したときには「そんな、直接顔も見ずに、機械を通して話をするなんて、非人間的だ！」という意見があったそうだが（この話にはオチがついていて、電話を使って人々がまず何を話したかという点、次に会う約束についてだった、とか）。

③今や、電話が非人間的なものだなんて、誰も思わないだろう。急速に普及しはじめているファクシミリや留守番電話に比べると、肉声がリアルタイムで聞こえる電話というのは、かなり生々しいとさえ感じられる。

「耳をダンボにする」という死語はさておき、電話での会話が生々しいという感覚は、今ならより共感を得られるのではないだろうか。「急速に普及しはじめたファクシミリや留守番電話」は下火になり、昨今はメールが主流になった。同じエッセイで、ネットの言葉については以下のように書いている。

パソコン通信上で交わされている言葉を観察すると、書き言葉と話し言葉とが、限りなく近づいてきているなあと思うことがある。特に、リアルタイムのチャットといわれるおしやべりなどがそうだ。「あ、○○さんがきた！」「もう、そろそろ寝よつと」「そうそう、このまえ話題になった○○のことなんだけど」といった具合。言文一致の新しい局面、といったら大げさだろうか。

B、お互いの意見やメッセージを書き込む掲示板のようなスタイルの場では、やわらかめの書き言葉が多い。そこに文章を書いている人は、文筆を仕事にしているわけではなく（なかには文筆業の人もいるが）ごく④一般の人たちだ。そういった人たちが、これほどまでに頻繁に、C なかば公に向かつて、ものを書くということをした時代が、かつてあっただろうか？ パソコンという道具を手に入れることによって、「ものを書く」という時間が、人々のあいだで急速に増えているように思う。そういう意味では、書き言葉としての日本語が、一部の人のものから多くの人のものへと開放されたとも言えるだろう。

もちろん、そのためにさまざまな問題もおこっている。ルールやマナーを無視した、人を傷つけたりする、無責任な書き込み。誰もが発言、発信できるという素晴らしの陰には、誰もが発言、発信できるという恐ろしさがある。新聞の投書の場合には、採用可否かという⑤ふるいがかけられるが、パソコン通信の場合には、それが無い。明らかにひどいものを、事前にチェックする機能はあるものの、あと⑥個人の良識にまかされている。こういう便利で素晴らしい道具を手に入れたことをきっかけに、普通の人が普通に使う書き言葉としての日本語の、足腰が鍛えられなくては、と思う。

書き言葉と話し言葉は、いつそう近づいてきている。ネットのメリットとデメリットについては、25 年前も今もほとんど変わらないと感じる。そして「ルールやマナーを無視した、人を傷つけたりする、無責任な書き込み」が、社会の大きな問題に育ってしまった25 年でもあった。一番の違いは、ネットはもはや新しい場所ではなく、日常のものだということだろう。ここで取り上げているのはパソコン通信がメインだが、その後スマホが普及し、SNS が登場した。「書き言葉としての日本語が、一部の人のもの」という感覚は、今の若者にはほばないだろう。最後に記した Y「普通の人が普通に使う書き言葉としての日本語の、足腰を鍛える」ことが、よりいつそう重要になってきた。

（俵万智『生きる言葉』による）

- （注 1）バックグラウンド——ここではその人の来歴やくわしい状況という意味。
- （注 2）応酬——意見などをおたがいにやりとりすること。
- （注 3）拙著——自分の著作をへりくだって言う表現。
- （注 4）抜粋——ぬきだすこと。
- （注 5）耳をダンボにする——耳の大きな象のキャラクターになぞらえた表現。「注意深く聞く」という意味で用いられる。
- （注 6）死語——時代の流れによってほとんど使われなくなった言葉。
- （注 7）言文一致——日常的に使われる話し言葉に近い口語体で文章を書くこと。

問1

A	↪	C
---	---	---

 にあてはまる言葉を、次のア～オから一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じ言葉は二度使えない。)

ア いっぱうで イ ところで ウ つまり エ なぜなら オ しかも

問2 ——— 線部①「道路」、⑥「個人」と同じ構成の熟語を、次のア～オから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 県営 イ 就職 ウ 仮定 エ 寒冷 オ 不安

問3 ——— 線部②「登場」の同義語(似た意味の言葉)として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 登頂 イ 出現 ウ 出向 エ 開場

問4 ——— 線部③「今や、電話が非人間的なものだなんて、誰も思わないだろう。」の文の主語と述語の関係として最もふさわしいものを、次のア～ウから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 何(だれ)が——何だ。
イ 何(だれ)が——どうする。
ウ 何(だれ)が——どんなだ。
エ 何(だれ)が——どこだ。

問5 ——— 線部④「一般」の対義語(反対の意味の言葉)として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 特訓 イ 特色 ウ 全般 エ 特別

問6 ——— 線部⑤「ふるいがかけられる」とありますが、「ふるいにかける」のここでの意味として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 好きかどうかで判断する。
イ 条件に合うように作る。
ウ 条件に合うものの以外を除外する。
エ 新しい条件を加えていく。

問7 ——— 線部X「その時の驚き」とありますが、筆者は何に驚いたのですか。次のようにまとめるとき、「——」に入る言葉を本文中から七字でぬき出して答えなさい。

- ・筆者にとって「電話」というものは「——」ときに使うものだと思っていたために、若い男の子の言葉づかいに驚いた。

問8 ——— 線部Y『『普通の人が普通に使う書き言葉としての日本語の、足腰を鍛える』ことが、よりいっそう重要になってきた』とありますが、筆者がこのように考えるのは25年の間にどのような変化があったからですか。次のように説明するとき、「——」に入る言葉を、「ネット」、「日常」という言葉を使って、三十字以上四十字以内で答えなさい。

- ・「——」「——」ことによって、「ルールやマナーを無視した、人を傷つけたりする、無責任な書き込み」の問題が大きなものになっているから。

問9 本文の内容と合っているものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 書き言葉と話し言葉の違いを理解していないと、ネット上で相手に言いたいことが伝わりにくくなる。
イ 現代では、電話だけでなくメールであっても「濃い」コミュニケーションの部類だと考えられている。
ウ 文章を書き慣れていない人は、ネット上でもものを書かないので、ほとんど書き言葉を使わなくなっていく。
エ 現実ならばそこまでおおごとにならないことが、ネット上だと炎上してしまうということも起こっている。

二

一

次の各問いに答えなさい。

問1 次の———— 線部の漢字の読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① 水時計に刻まれた目盛り。 ② 拡張工事が行われる。
③ 服装に気をつかう。 ④ セスジをのばす。
⑤ 明るいテンボウをいただく。 ⑥ パソコンのセンモン店を探す。

問2 次の①～⑥の□にあてはまる漢字を、後の漢字群から一つずつ選んで答えなさい。

- ① □につまされる ② □があつたら入りたい
③ 白い□で見る ④ かゆいところに□が届く
⑤ 先んずれば□を制す ⑥ □のない所に煙は立たぬ

漢字群 手 ・ 身 ・ 火 ・ 人 ・ 目 ・ 穴